

目的：農村三世代家族の上二世代（G<sub>1</sub>母とG<sub>2</sub>妻）の間の、日常生活に対する態度（考え方や好み）の一致・不一致の実態を明らかにする。

方法：静岡県志太郡岡部町朝比奈地域の三世代家族の上二世代（G<sub>1</sub>母とG<sub>2</sub>妻）それぞれに対し、1986年7月に統計調査を、1987年8月に事例調査を、訪問面接聴取法により行った。分析対象は、1986年調査では、G<sub>1</sub>母・G<sub>2</sub>妻共に有効回答の得られた129組、1987年調査では、このうち農家に限り、G<sub>1</sub>母・G<sub>2</sub>妻共に有効回答の得られた20組である。分析（1986年調査）は、コンピューターを使用し、SPSSXによる単純集計・クロス集計・検定等を行った。

対象者（1986年調査）の基本的属性：①平均年齢—G<sub>1</sub>母68.5歳、G<sub>2</sub>妻39.4歳。②出身—G<sub>1</sub>母の67%、G<sub>2</sub>妻の45%が岡部町出身。③家族構成—63%が完全三世代家族、37%がG<sub>1</sub>父欠損三世代家族。④農業経営形態—27%が専業農家、57%が兼業農家、16%が非農家。

結果：①G<sub>1</sub>母よりもG<sub>2</sub>妻（特に一番若い世代）の方が、ギャップを強く感じている。②同一家族内での一致認識レベルをみると、世帯を単位として行う事柄については、レベルが高く、両者間のギャップは小さいが、個人的に行う事柄については、G<sub>2</sub>妻の個人主義的態도가うかがわれ、レベルが低く、両者間のギャップは大きい。③それらのギャップは、近代化・都市化の指標でもある兼業化・サイフの世代分離化等により大きくなっている。④G<sub>1</sub>母とG<sub>2</sub>妻の一致認識度の間には、相関関係が認められる。⑤G<sub>1</sub>母・G<sub>2</sub>妻それぞれの一致認識度については、基本的属性（G<sub>2</sub>妻のみ）、農業経営状況、現在の生活状況、過去の生活状況（G<sub>1</sub>母のみ）、現在の情緒関係、現在の意識状況等との関連がみられる。